

# 菊池 仁康(きくち・にこう)

## 1、プロフィール

ドフトエフスキー、プーシュキンら露西亜文学の研究、翻訳に携わる。終生、詩人・評論家福士幸次郎との親交を深めた。銀行業を営み、地元実業界発展に寄与した。

<生没>

1895(明治 28)年5月 29 日～1967(昭和 42)年9月 14 日

<代表作>

『露西亜二十一人集』(大正 11 年)。『プーシュキン全集 第一巻』(昭和 11 年)、『プーシュキン全集 第二巻』(同 12 年)。

<青森県との関わり>

板柳町出身。プーシュキンなど露西亜文学の研究・翻訳者。(株)板柳銀行取締役頭取として実業界に手腕を発揮。

## 2、作家解説

明治 28 年、北津軽郡板柳村(現 板柳町)に父菊池仁了の長男として出生した。仁了の兄仁候は、同 33 年(株)板柳銀行を創立する。県立青森中学校卒業後上京。明治大学政治経済科、露西亜神学校、日露協会学校で露西亜文学を学び、露西亜新聞社政治部に在職中、『ドフトエフスキイ全集』をロシアから取り寄せ、小説『白痴』の翻訳に没頭した。大正 5 年から著述業に従事し、日本評論社の『ゴオルキイ全集 第五巻』では 5 編の翻訳を担当。同 11 年には『露西亜二十一人集』を善文社から刊行した。同 8 年から税務署に勤務したが、同 11 年母の死去により帰郷。(株)板柳銀行々員となり、同 15 年には同行常務取締役役に就任した。

同 12 年暮れ関東大震災の難を逃れ、菊池を頼って詩人・評論家の福士幸次郎が帰郷した。菊池は福士の提唱した地方主義運動に賛同し、経済的援助を惜しまなかった。自身も、同 13 年文学講習会では、「露西亜国民文学の起源から発達まで」と題した講師を務めた。その後、東京へ戻った福士は度々板柳に菊池を尋ね、旧交を深めた。

戦前、(株)板柳銀行取締役頭取、(株)菊屋商事部取締役社長、(株)菊屋百貨店取締役社長、(株)青森貯蓄銀行取締役頭取として、大いに地元経済界に手腕を振った。特に、昭和 18 年の一県一行合併による(株)青森銀行創立に尽力した。

一方、同 11 年には、「ロシア近代文学の父」と称えられたプーシュキン没後百年を記念した『プーシュキン全集』(全 10 巻予定)の刊行に取り組んだ。『全集』の内、第一巻、第二巻(小説篇上・中)を、詩人佐藤一英の紹介で、ボン書店(戦後、稀覯本詩集で名高い伝説の出版社)から刊行し、高い評価を得た。

同 17 年、福士や彫刻家渡辺義知らの応援を得て、第 21 回衆議院議員総選挙(翼賛選挙)に立候補したが、国政への道は叶わなかった。さらに、戦後初の第 22 回同選挙にも立候補した。その後も実業界で活躍し、同 42 年、板柳町で腸閉塞により逝去した。

### 3、資料紹介

○『プーシュキン全集 第一巻』

図書

1936(昭和 11)年9月1日

195mm×135mm

昭和 11 年頃から、菊池はロシア近代文学の父プーシュキン没後百年を記念して、『全集』(全 10 巻予定)の刊行に取り組んだ。小説部門第三巻迄の原稿を、東京市豊島区のボン書店(鳥羽茂 経営)に届けたが、同店の事情により第二巻迄の刊行となった。